

平成27年度通常総会

第22回通常総会を下記の通り開催し、会員の皆様にはご多忙中にも拘わらず多数ご出席を賜り、お蔭で、無事終了しましたことをご報告いたします。

1. 日時 平成27年6月25日（木） 13:45～14:45
2. 場所 ホテルセントヒル長崎 3F「紫陽花」
3. 正会員 総数 64名
4. 出席者 60名（出席者34名＋委任状26名）94%

第1号議案 議事録署名人の選任：

中野一英理事・酒井良文監事を選任

第2号議案 平成26年度活動報告並びに決算・監査報告承認の件：満場一致で承認。

第3号議案 理事選任の件：

（株）ユースフル 荒木泰道氏、（有）ランカードコム 峰松浩樹氏の理事就任の件を満場一致で承認。

- （4）東長崎エコタウン協議会にNISA会員が参画し文部科学省緑の知の拠点事業、下水道革新的技術実証事業、ENEハウスプロジェクト、地域エネルギー活用プロジェクトに関わった。
- （5）長崎県IT融合化推進協議会で、ARコンテンツ作成研究会を設立した。
- （6）長崎県工業連合会設立協議会（仮称）へ参画した。
- （7）会員企業がシーテックジャパン2014「長崎県ブース」へ出展。
- （8）会員企業が第5回国際スマートグリッドEXPO「長崎県ブース」へ出展。
- （9）長崎市経済振興会議へ参画した。
- （10）多くの会員企業は「平成25年度補正/中小企業・小規模事業者/ものづくり・商業・サービス革新事業」に採択された。

2. 交流事業

- （1）ANIA通常総会と関連行事に参加。
- （2）第36回全情連大会「ANIA岡山大会」へ参加。
- （3）ANIA新春交流会に参加。
- （4）ANIA理事会、事務局長連絡会議に参加。
- （5）JISA九州・沖縄支部会に参加。
- （6）長崎県工業技術センターとの意見交換会を開催。
- （7）NISA通常総会、臨時総会、講演会、交流会を実施した。この折に会員向けに「我が社の一押し」として会社や製品、取り組み等を紹介する機会を設けると共に「ビジネスコラボ」を開催し懇親会を通じて会員相互の理解を深めた。
- （8）IPA第10回「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」を後援しNISA会長賞を設け長崎県の中高生を表彰した。
- （9）研修事業は、受講者数目標200名に対し219名を達成することができた。
この他第1回「i（アイ）コンピデンシディクショナル・ワークショップ」（中小企業向けITスキル標準）を実施し会員企業3社が参加した。

平成26年度 活動報告

平成26年度の我が国経済は「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」の一体的推進により、緩やかな回復基調が続いている



平 会長

ものの個人消費等に弱さがみられ、年度前半には実質GDP成長率がマイナスとなりました。こうした状況の下、雇用・所得環境が改善するなか、経済対策や政労使会議を含む各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復となりました。そのような時代背景の中当協会の研修事業は長崎のIT業界の人材育成に寄与すべく受講者目標200名をクリアし219名の方に受講していただきました。受講していただいた会員企業の皆様にはあらためて御礼を申し上げます。活動内容につきましては次のとおりです。

1. 地域情報化の推進活動

- （1）長崎県ICT化推進連絡会議で長崎県や長崎工業会と共に地域IT化のための活動を行った。
- （2）地元企業間連携による県事業の推進に参画した。
- （3）超小型EVと関連技術の検討を地元事業化検討会を中心に行った。



総会会場

平成27年度 活動方針

【基本方針】

平成27年度の我が国経済は、「緊急経済対策」などに示された政策の推進や政労使の取組み等により、雇用・所得環境が引き続き改善し、好循環が更に進展するとともに、交易条件も改善する中で、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれます。物価については、原油価格低下の影響はあるものの、日本銀行の「量的・質的金融緩和」の効果等もあり、デフレ脱却に向け着実な進展が見込まれます。地方公共団体が主体となる「地域再生計画」に関して、その取組みを支援するため、地方自治体などの要望に応じて柔軟に活用できる新しい交付金を平成27年度に創設することが決まっております。これに対応するIT産業に関連した県・市の取組みに期待しております。このような中、本年度も「一般社団法人」としての趣旨に従い自主運営・管理の下、非営利法人として会員や県内事業者の皆様のお役にたてることを第一に、先進的なテーマへの取組みを交えながら運営していきます。

「我が社の一押し」

■独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)



遠藤氏

「iコンピテンシ・ディクショナリ(iCD)とは」のテーマで説明していただきました。基本となるのは仕事を定義する「タスクディクショナリ」と仕事を

遂行するための素養である「スキルディクショナリ」であります。自己の評価や、こうありたい項目を策定していくことから始め仕事や能力を細分化し評価項目を定義していくことが大切であり、かなりの時間を要するので参加者の負担は大きい。それを実施するには経営者の理解と協力も必要であるとの説明がありました。このワークショップ成果として①社員に対し自社のあるべき姿や今後重点的に取組むべきタスク、それを行うために必要となる項目を明確にできる、②他の参加企業と検討ステップや成果物を共有し、それらアイデアを参考とすることで充実した人材育成計画を立案できる、③診断による見える化だけに留まらない実践的な自社の人材育成が実行可能となる等が挙げられていました。

IPAとしては、iCD5ヵ年計画で残り2年半というタイミングでNISAのメンバー3社が取組んだことや次年度も数社が取組む方針であることは日本の中でも先駆的でありITは中央主体であるという従来の評価を変えられるというわくわくするような表現をしていただきました。今回取組んでいた3社のご活躍に期待しましょう。

■(株)NDKCOM



尾崎氏

3年前に新給与体系に合わせた職能要件書を作成し、運用を開始した。その後、人事考課表の作成のため、職能要件書の見直しを行うことになったがなかなか

思うように進んでいなかった。そのような状況の中で、今回のワークショップに参加しました。評価項目が多くパイロットレコーディングに想像以上の時間を要した事、得られた結果を分析したところ想定していたレベルとの差異に驚いたこと等が述べられた。その後様々な課題を多く述べられており具体的な目標と今後の取組みについても考察されていました。最後に今後ワークショップに参加する予定の企業に対してもいくつかのアドバイスをいただきました。

■不動技研工業(株)



土田氏

個人や企業の可視化を実現できた経験を熱く語っていただきました。途中には経営者にも参加していただいたことで、会社の向かうべき方向と個人の

意識を合わせることで有意義だったことで感謝を述べられた。一方、ディクショナリの共有化は難く、ワークショップ終了後に通常の仕事があったので大変だった等、本音を垣間見せるトークも迫力がありました。ワークショップは大変だけど、途中で辞めては絶対にダメです。これを実行できれば見えなかったものも良く見えるようになります。登壇して初めに語られた「これから始める企業の皆様に伝えたい」ということが、十分伝わるお話だったのではないかと思います。

■オフィスメーション(株)



石井氏

人事制度、労務改革に取組もうと考えていた時でもあり、これを意識しながらワーキングに参加された。役割と評価項目を設定すること。個人の役割レベルを見習いから師匠レベ

ル6段階に設定したこと等、自社に合ったアプローチを分かりやすく説明していただきました。お客様と接する場合技術職であっても営業の提案を行うことで、新たなビジネスへつながることも重要なポイントであったと思います。今後は個々の評価結果を分布図にまとめ、社内で公開するなど全社員に適応範囲を広げていかれるとのこと。この時、氏名と結果は公表せず、分布図のみを公開されるそうです。とても興味深い取組みだと思えます。

「講演会」



小林氏

「次世代Webアプリケーション開発技術」の演題で長崎大学大学院工学研究科の小林 透教授をお招きして講演会を開催しました。NTT研究所でソフトウェア生産技術、情報セ

キュリティ、データマイニング、Web技術に関する研究開発に従事されていたことや現在様々な機関の委員やアドバイザーをされていることから様々な視点でシステム開発に対するヒントを頂きました。まず初めに教育の分野では「スマート教育」の取組みの説明がありました。現在全国で20の小中学校において一人に一台のタブレットPCを配布し、全ての教室に電子黒板や無線LANを配備し、デジタル教材を活用した教育の効果の検証、指導方法の開発、モデルコンテンツの開発に関する実証実験を行っているが教育コンテンツの不足や現場教員の負担が増す等の課題がある。これらを解決できると、これまで文字や写真から得ていた知識を動画を使ったり、それに関連する項目を検索することで理解する速度や精度が増すという効果も期待されています。次に「災害対策」に対する取り組みとしてスマートフォンでドローンをコントロールし、人が近づきにくい災害現場の調査と情報共有を迅速に行う等、今の機器を組合わせたシステム構築の例を示していただきました。更に「高齢者支援」に対しては若年世代の要望が強い安否確認のような見守りから始まり、高齢者が望んでいるコミュニケーションを実現する取組みの紹介がありました。最後に、長崎に大いに関係する「観光振興」では、地図上に観光や地域の施設情報等のデータベースを組合わせたシステムの実演を行って頂きました。これからは長崎大学の持つ次世代Webアプリケーション技術と長崎の産業、我々NISA会員企業と一緒にシステムの構築と運営を行うことで利益を確保し地域に貢献することができると思います。なお、長崎大学のデータベース「オープンデータ(LOD)エンドポイント」は長崎県ビッグデータ研究会での発表時に新聞社等でも大きく取り上げられています。



講演会会場

「交流会」



交流会会場

交流会を開催しましたところ、ご多忙中にも拘わらず長崎県産業労働部、総務部、および長崎市経済局商工部の方々にもご参加していただき地域発展につながるよ

うな交流・懇親の場を持つことができました。中締では新春交流会でもお願いしました長崎総合科学大学の田中副学長から、企業は企業にとって重要な売上拡大と利益を確保しなければならないという想いを代弁していただきました。皆さまのご協力に感謝いたします。



長崎県企業振興・技術支援課 貞方 課長



長崎市商工部 長谷崎 理事



長崎県情報政策課 大庭 課長



長崎総合科学大学 田中 副学長

マイナンバーセミナー



セミナー会場

日時：平成27年7月23日
(木)、13:30～15:30
場所：ベストウェスタン
プレミアホテル長崎
講師：特定個人情報
保護委員会事務局
高間 佑樹氏

当協会主催による「マイナンバー制度の概要」と「マイナンバーのガイドライン」についてのセミナーを開催しました。説明後の質疑ではかなり熱のこもったものが多く、この制度に対する様々な思いを感じました。飲食関係の方からは会社に内緒のアルバイトが会社に知れるなら、その人はアルバイトを辞めなくてははいけなくなる。そうなると飲食店側も個人も困るとの切実な意見には会場も静まり返る場面もありました。多くの企業はナンバーの収集、管理について不安を持っているようです。当会員企業にとっては仕事につながるチャンスかもしれません。本セミナーが皆様のお役にたつことを願っています。最後になりますが、本セミナーに多数ご参加いただきありがとうございました。

第37回全情連大会「ANIAいしかわ大会」 「アジア情報」



全情連大会会場

平成27年9月10(木) 石川県金沢市ANAクラウンプラザホテル金沢で第37回全情連大会 ANIAいしかわ大会が前日から台風の影響も心配されましたが無事開催

されました。金沢は新幹線の開通の影響もあり活気に満ちていました。金沢駅は大型の商業施設となっておりその近辺に多数の宿泊施設もあり大勢の人で賑わっています。庶民の台所と言われる市場も近く観光客も多いようです。ただ近隣の県にその恩恵はまだ少なく石川県の一人勝ちの感が強いようです、これから近隣県と連携して活性化を図ることが課題になっています。大会は一般社団法人石川県情報システム工業会30周年記念式典も兼ねており、地域の歴史や産学官連携した人材育成等身近なテーマを主として構成されていました。開会挨拶、表彰式が行われ当協会事務局の岩永さんも永年に渡るNISAへの貢献で表彰されました。その後「Twitter Japanのビジネス戦略について」の演題Twitter Japan(株) 笹本社長の講演がありました。ツイートの回数・内容をビッグデータとしての活用を考えているとのこと。次にリレートークとして「どうする！情報システム産業における人材確保」のテーマで討論会繰り広げられました。司会は(株)クオリティ・オフ・ライフ 原代表、スピーカーは(大)北陸先端科学技術大学院大学 松澤副学長、(大)金沢大学 学生部就職支援室 山本氏、(一社)石川県情報システム工業会 饗庭会長の3名でした。目的意識の低い学生や、都会や大企業志向の学生をいかに地元の中小企業で働いてもらうか、学生の本音や教育現場や就職活動の状況等多くの経験を話す中でそれぞれの工夫が語られました。なかでも学生の中から企業と関わりをもつ機会が重要であること、例えば企業側には職場を体験できる機会を提供して欲しいし、学校にはその時間で単位を取得できるような改善が必要であるなど、具体的に学生をサポートするために有効な方法が示されました。企業はその体験期間に学生との信頼関係を構築し求人の際に有利になるような努力が求められていると思います。更には優秀な人材をいかに定着してもらえるかで、社員の子息が大学に進学する際にその学費を援助するといった事例等も示されたことには驚きました。そして石川県の情報産業が想像以上に規模も大きく発展していることも長崎の方々にお伝えしたいことです。次の全国大会は2016年9月15・16日に秋田で開催される予定です。



全情連大会会場



懇親会会場



2010年頃にベトナムのホーチミンでファミリーマートに立ち寄りしました。商品の品数はまだ少なく価格は高めだったように思います。店内を見渡してみると

窓側に棚とイスがあるではありませんか。ここは何？「そこでカップラーメンを食べるんです！」なるほどお腹をすかせたバイクに乗ってきた若者がその場で麺を食べるそれが普通のようなのです。そして、最近福岡のファミリーマートではラーメンを出しているではありませんか。コンビニでは先行している日本も東南アジアのサービスを逆輸入？？？

ベトナムはイオンの進出もあり日本式のサービス・品質が流行り出しています。自治体から和牛等特産品の売り込みも盛んです。冷温流通やITを利用した顧客サービスがこれからの課題です。NISA会員の皆様にもチャンスありますよ。

「事務局便り」



1. ANIA優秀役員表彰

前事務局長 岩永俊之氏は、H27年度ANIA第37回全国大会で優秀役員表彰を受けました。その貢献・功績内容は下記の通りです。

H5年当協会の監事、H6年～H13年まで理事を務めた経験を生かし、H13年6月

～H24年6月まで、事務局長として協会の取纏め役を担当し、安定した協会運営ができるような体制の確立と収益事業に取り組んで、協会発展の基礎を固め、その発展に大きく寄与した。事務局長退任後は、現在まで主に人材育成のための研修事業を積極的に取組み現在に至っています。

2. NISA HPの改善 <http://www.nagisa.or.jp/>

TOPページを見やすくするとともに、重要情報の表示、バナーによるIT関連情報の掲示を行いました。また、会員情報の掲示様式を一新し、共通様式による紹介を行います。現在、ご回答会員様分から順次新様式へ変更をしていきますので、ご協力をお願い致します。

発行元：一般社団法人 長崎県情報産業協会
〒850-0032 長崎市興善町4-6-701

電話：095-824-0332

発行責任者：会長 平 敏孝

発行日：平成 27年10月22日 第1版

(文責：総務広報委員会 梁瀬理事)